

薬局の服薬支援に関する患者の認知度・利用状況調査

- 1) 総合メディカル (株) そうごう薬局 飾磨店
- 2) 篠山店、3) 総合メディカル (株) 堀家 有理紗¹⁾、高垣 卓史²⁾、坂口 雅彦³⁾

【目的】近年、高齢者において使用薬剤が多い事から飲み忘れによる薬物治療の有効性低下や、飲み間違いによる有害事象の発生が問題視されており、薬局が行う服薬支援の重要性が一層高まっている。本研究では、65 歳以上の高齢者に対して、服薬支援の認知度、利用状況や服薬管理に関して困る事、現在の支援が十分か、不十分であればどのような支援が求められているかを把握することで、薬剤師が今後積極的に行うべき事について検討したので報告する。

【方法】2022 年 5 月～2022 年 6 月の期間に兵庫県内 18 店舗に来局する 65 歳以上の定期薬がある患者 319 名に対して、アンケートを実施した。服薬管理に関して困る事、服薬支援の認知度、利用状況、支援の満足度、未利用者の理由などを調査した。

【結果】服薬管理に関して困る事の有無の割合は、あり：11%、なし：89%であった。困る事の内訳は、残薬あり：26%、飲み忘れ：24%、飲んだか飲んでいないか分からなくなる：16%の順に多かった。服薬支援の認知度は、減薬相談：39%、飲みにくい薬の変更相談：34%、かかりつけ薬剤師制度：66%、服薬フォローアップ：37%、残薬整理：47%、一包化(単科)：39%、一包化(複数科)21%であった。服薬支援未利用者は 170 人で、全体の 20%は支援自体を知らなかった。支援認知者の未利用の理由は、特に困る事がない：81%、求めている支援がない：5%などであった。

【考察】結果より服薬管理で困る事については残薬、飲み忘れに関する項目が多く、患者の個々の状況に応じたアドヒアランス改善のため支援の必要性が浮かび上がった。また認知度については、複数診療科の一包化や飲みにくい剤形の変更の検討が少なく、薬剤師は積極的に提案や支援の周知を行う必要がある。現状では服薬支援については不必要と訴える高齢者が多いが、支援の周知を進め、支援が必要になった際に申し出られる環境を整えることも重要と考える。